

# 9の専門外来で先端治療

## 先端心臓血管病センターが外来診療開始

信大医学部附属病院（勝山努病院長）は4月28日、「先端心臓血管病センター」の外来診療を開始した。同センターは循環器内科と心臓血管外科、小児科循環器グループが部門横断的に連携。血管再生や遺伝子治療など、循環器領域の先端治療を実施する。センターの設置は今年1月に承認され、すでに西8階に専用病棟48床を運用。外来の整備で先端治療を臨床で積極的に実施する環境が整った。

センター長は池田宇一・循環器内科教授、副センター長は天野純・心臓血管外科教授が務める。26日開いた開所式で池田センター長は「最良・最先端の医療が提供できるよう努力していきたい」と述べた。

外来は、病院1階の南科▽ペースメーカー・I CD▽心不全▽特殊ステント▽成人CHDの9センターを開設。院内外から紹介を前提とした高度専門治療を展開する。外来のスタートに合わせ、診療機器も新たに整備した。心臓カテーテル検査前に、外来でその必要を判断できる冠動脈CTの解析用ワークステーションをセンター専用と

して確保。また、不整脈に対し、心房にカテーテルを挿入し、異常回路を高周波でブロックするカテーテルアブレーションの3次元画像システムも導入。4月中に第1例目を施行、成功している。

同院は4月に高度先進医療施設の承認を受け、従来池田、天野両教授らが行っていた、今後同センターが取り扱う閉塞性動脈硬化症などに対する骨髄幹細胞移植が、保険適用となっている。